

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第30号 平成23年9月9日

達脇初回の四球をバットで取り返す！

初回の四球と失策が今日の敗戦・・・

	1	2	3	4	5	6	7	R
S	2	0	0	0	0	0		2
G	0	0	0	0	2	0		2



9/9（日）VictoriaGS第三戦、東京サentakロス戦を新横浜公園野球場で行った。最近のゲリラ豪雨が心配されたが、今日の天候は若干でも涼しさが欲しい、そんな暑さの中でプレイボールとなった。内容は後にも先にも、相手の得点は初回の2点のみで有った事から、実に悔やまれる初回の守備機会であった。初回、先頭、次打者と連続四球で出塁を許す、三番は遊ゴロで一死を得るが、四番には、一二安打を放たれ、一死満塁と絶対のピンチを迎えた。ここで相手五番打者が粘り、6球目をセンターに運んだ、センターが追いつき、グラブに当てたものの捕球出来ず、二者が生還した。しかし、後続二者を達脇が三振に斬り、この回を結果2点で抑えた。続く回にも先頭をサードの失策で出塁を許すと、後続に四球を与え、無死一・二塁とまたもや場面はピンチに変わった。続く打者を遊飛に打ち取り、続く打者には6-4-3のダブルプレーを取り、この回のピンチを脱した。3回以降は、左程のピンチを迎える事無く、達脇は最終回までマウンドに立った。この達脇の頑張りに打線が応えたいが、打線は今日も大渾り。4回までほぼ三社凡退が続く、が、翌5回にこのゲーム最大のチャンスが訪れた。先頭が倒れたが、次打者が相手失策により出塁、が次打者の進塁打を綺麗に抑えず、あっさりセカンドでアウトになり、走者が入れ替わる、場面は二死、ここで、一人気を吐く達脇が打席に入る。ワンボール後の打球を叩くと、センターが直接捕球出来るかどうかという難しい打球がセンターに飛び、この打球を捕球できずに後ろに反らす間に、一塁から一挙智がホームインし、1点を返す。この間に打者走者は二塁まで進塁、そして続く泉の詰まった三塁ゴロを相手サードがファーストへの悪送球、この間に達脇がホームを踏み、同点とした。これで流れが我がチームに傾き、最終回にも一死後、相手失策で出塁、次打者は内野の飛球で二死となったが、今季好調の梶原が一塁を抜く安打で二死一二塁とサヨナラのシーンを演出した。いけいけの展開の中で今季未だノーヒットの浅沼が打席に入る。ベンチからの期待感120%、メンバー全員が見守る中だったが、あっさり初級を泳ぎ、投飛に終わり、今日のゲームを引き分けとした。負け粘りを見せた事は評価出来るが、勝ち点3を上げる事が出来なかった事は、残りの対戦相手から、苦しい展開に繋がる事となった。

今日のゲームを振り返ると、冒頭記載したとおり、やはり初回にある。投手は如何に四球を出さずに打ち取るか、野手は如何に投手が打ち取った打球を裁きアウトを積み重ねる事にある。メンバーからの信頼を得るためには、やはり共に意識する必要がある。また、今日その捕球出来なかった理由はかなりいただけない内容であっただけに、今後は絶対に注意してもらいたいものである。

また、更にもう一つ考えて欲しいプレーがあった。結果1点を返せたという事実は有るものの、場面が2アウトという事がしっかり意識されていれば、ホームでの危ないシーンにはならなかったと感じた。まだまだ残暑が厳しく、戦いも苦しいものかも知れない。が、終了時点で勝利か否かで、その疲れ具合も違うはず、今季を終了した時点でチームとして満足出来たのか？その内容に対して貢献出来たのか？

虚しいシーズン終了とならぬよう、まだまだチーム一丸支えながら、勝利を目指そう！今日という日に感謝し、野球が出来る喜びを噛みしめながら、二度と来ない、この空間を有意義にするために！